

2010年9月8日

口元や目元に視線を誘導することで、若々しくスキントラブルが目立たない印象に

メイクアップによる視線誘導効果を科学的に証明**「第26回 IFSCC Congress ブエノスアイレス大会」にて発表**

株式会社カネボウ化粧品

カネボウ化粧品・メイクアップ研究所は、慶應義塾大学福田亮子研究室との共同研究において、人が他人の顔を見る際の視線を解析することにより、メイクアップが“他人の視線”を口元や目元に誘導し、スキントラブルへの注視を回避させていることを科学的に明らかにしました。併せて、口元のメイクアップパターンによって、若々しさの印象が異なることも見出しました。

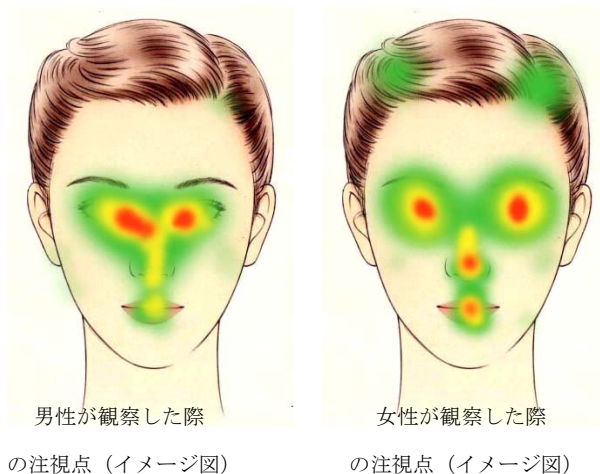
この研究成果をもとに、「惹きつけて印象づけるメイクアップ」を提案する化粧品アイテムの開発や化粧法の開発を目指していきます。

本研究成果は、化粧品科学分野において最も権威ある研究発表会「第26回 IFSCC Congress ブエノスアイレス大会」にて発表する予定です。

他人顔への一般的な視線

まず、人が他人顔を観察する際に注視する部分を確認するために、女性13名の普段のメイク顔の画像を用い、男女合わせて20名が15秒間顔画像を観察した際の、視線の動きについて解析しました。その結果、全般的に目元や口元、鼻を注視する傾向を見出しました。

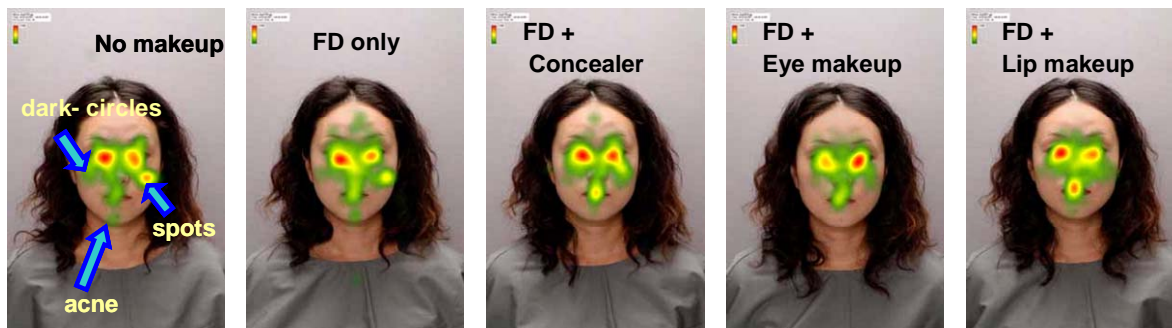
さらに、男女別に傾向を見てみると、男性が両目と鼻の付け根の中間付近に



視点を置くのに対し、女性は目元の化粧感、口元、さらには肌の細かい部位までしっかり観察していることがわかりました。

メイクアップパターンによって変化する視線

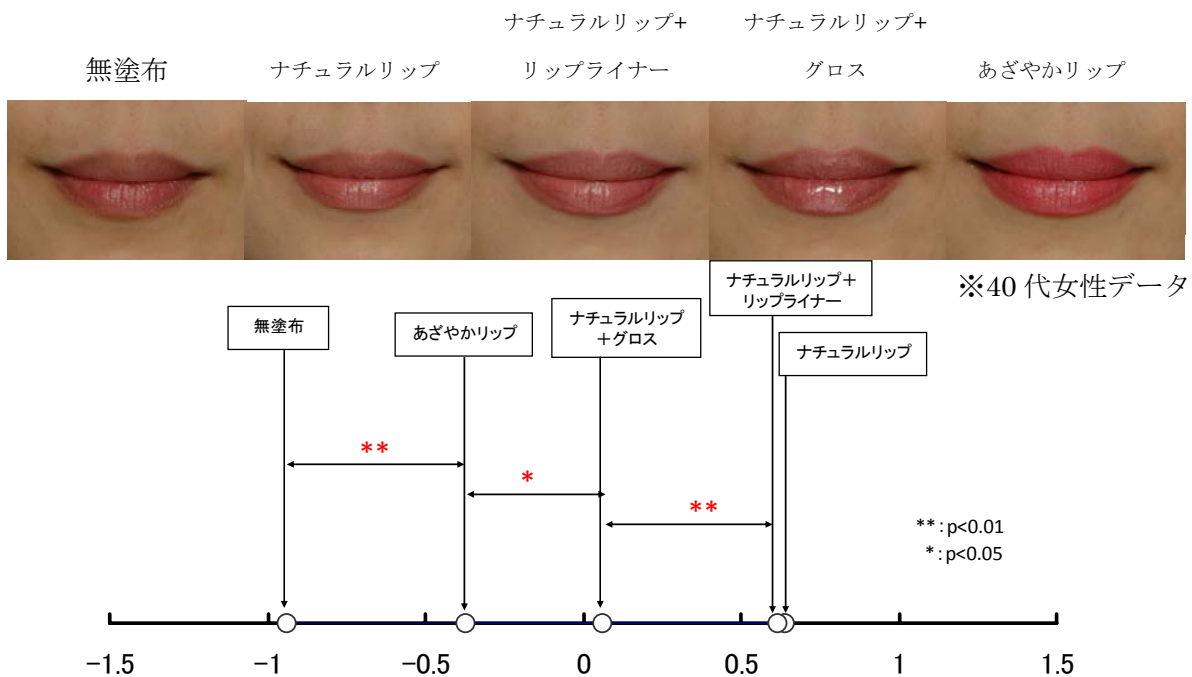
そこで、女性の視線傾向をより詳細に示すために、同一女性のメイクアップを、「ファンデーションのみ」「ファンデーション+コンシーラー」「ファンデーション+目元メイク」「ファンデーション+口元メイク」と変化させた時の視線を解析したところ、目元や口元にメイクアップを施した場合には、視線が目元や口元に強く向かう傾向が見られ、同時に、シミなどのスキントラブルへの視線は減少していることが明らかとなりました。



口元メイクのバリエーションによる若々しさ変化

このように、“他人の視線”はメイクアップを施した箇所に向かう傾向があるため、口元のメイクアップパターンによって、顔の印象も大きく変わってくると考えられます。そこで今回は、「ナチュラルリップ（自然な色味の口紅を使用した口元）」「ナチュラルリップ+リップライナー（リップライナーを併用した輪郭のある口元）」「ナチュラルリップ+グロス（グロスでツヤを付与した口元）」「あざやかリップ（はっきりとしたあざやかな色の口元）」をそれぞれ「無塗布の口元」と比較し、若々しさの印象について順位法による実験で検証しました。

その結果、全ての口元のメイクアップパターンが、無塗布の口元と比べて若々しい印象となりました。中でも「ナチュラルリップ」と「ナチュラルリップ+リップライナー」は高いスコアをマーク、より若々しい評価を得ました。



カネボウ化粧品では、本研究成果をもとに更なる研究を続け、今後も化粧品アイテムや化粧法の開発を推進、視線の集まりやすい部位を美しくメイクすることで、顔全体の印象をより魅力的にする「惹きつけて印象づけるメイクアップ」を提案し、“メイク本来の楽しさ”を追求していきます。

なお、本研究成果は、「第26回 IFSCC Congress ブエノスアイレス大会」（2010年9月20～23日）での発表を予定しています。